H22(2010)年　文系専修科目　現代の音楽とテクノロジー
担当教員：往住彰文（とこすみ・あきふみ）
4/07 ガイダンス
4/14 現代音楽とテクノロジー：事例研究 IRCAM
4/21 現代音楽とテクノロジー：事例研究 IRCAM
4/28 現代音楽とテクノロジー：事例研究 IRCAM
5/05（こどもの日）
5/12 音楽の進化
5/19 音楽の進化
5/26（創立記念日）
6/02 音楽AI
6/09 新楽器学
6/16 新楽器学
6/23 現代音楽とテクノロジー：事例研究 CCRMA
6/30 現代音楽とテクノロジー：事例研究 CCRMA
7/07 （プレゼンテーション）
7/14 （プレゼンテーション）
プレゼンテーション昨年の例：
JazzFusion，自動演奏音楽(Nancarrow), LinkinPark歌詞と音、B’z視覚映像
LivePerformance、AKB48会いたかった20連発、Stockhausen群の音楽、
Scriabine10

成績評価の方法：
小レポートとプレゼンテーションの合計点による.
小レポートは，授業中に課題が出され，授業中に作成する.
プレゼンテーションは学期中におこなう．題目は『私の選ぶ最高の音楽作品』.
プレゼンテーション日を予約する．20分間．音源必要.

テキスト・参考書：
なし（参考資料を配付）

履修の条件：
現代音楽になじめる精神的態度が不可欠である。20世紀、21世紀の作曲家で、語ることのできる好みの作曲家を一人はもっていること。

担当教員から一言：
人数制限をする場合があるので、一回目の授業に必ず出席すること。

Rationalizing Culture: IRCAM, Boulez, and the Institutionalization of the Musical Avant-Garde.
Georgina Born, U. California P., 1995

文化を合理づける：IRCAM, ブーレーズ，そして前衛音楽の制度化

ircam
Centre Pompidou

Institut de Recherche et Coordination Acoustique/Musique

文化を合理づける：IRCAM, ブーレーズ，そして前衛音楽の制度化

序

1. テーマと議論
2. 前史：モダニズム，ポストモダニズム，そして音楽
3. 背景：IRCAMの存在条件
4. IRCAMという制度：文化と地位
5. 権力，制度的葛藤，政治
6. 音楽：不確定性，正典，反体制
7. 科学，技術，音楽研究の前衛
8. ある作曲家の滞在：瞑想と実践
9. 難問：生産の技術的ならびに社会的問題
10. 主観性：差異と断片化
11. 結論：IRCAM, 文化権力，そして審美的モダニズムの再生産